



エリザベート王妃国際音楽コンクール
優勝者による

ステラ・チェン & イム・ジヨン
デュオ・リサイタル

by the winners of the Queen Elisabeth International
Music Competition of Belgium

Stella Chen & Ji Young Lim
Duo Recital

日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION

〒107-0052
東京都港区赤坂1丁目2番2号

Tel : 03-6229-5566
Fax : 03-6229-5570
Email : info@nmf.or.jp
<https://www.nmf.or.jp>



2024年
1月25日(木) 19:00

サントリーホール ブルーローズ
主催 日本音楽財団

PROGRAM

ジャン＝マリー・ルクレール

Jean-Marie Leclair (1697–1764)

2つのヴァイオリンのためのソナタ ホ短調 作品 3-5

Sonata for 2 Violins in E Minor, Op.3-5

- I . Allegro ma poco
- II . Gavotte
- III . Presto

イム・ジヨン (第1ヴァイオリン)
ステラ・チェン (第2ヴァイオリン)

Ji Young Lim, 1st violin
Stella Chen, 2nd violin

エドヴァルト・グリーグ

Edvard Grieg (1843–1907)

ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ハ短調 作品 45

Violin Sonata No. 3 in C Minor, Op.45

- I . Allegro molto ed appassionato
- II . Allegretto espressivo alla Romanza - Allegro molto
- III . Allegro animato - Prestissimo

イム・ジヨン (ヴァイオリン)
大須賀 恵里 (ピアノ)

Ji Young Lim, violin
Eri Osuka, piano

ヨハネス・ブラームス

Johannes Brahms (1833–1897)

ヴァイオリン・ソナタ 第3番 二短調 作品 108

Violin Sonata No. 3 in D Minor, Op.108

- I . Allegro
- II . Adagio
- III . Un poco presto e con sentiment
- IV . Presto agitato

ステラ・チェン (ヴァイオリン)
大須賀 恵里 (ピアノ)

Stella Chen, violin
Eri Osuka, piano

モーリツ・モシコフスキ

Moritz Moszkowski (1854–1925)

2つのヴァイオリンとピアノのための組曲 ト短調 作品 71

Suite for 2 Violins and Piano in G Minor, Op.71

- I . Allegro energico
- II . Allegro moderato
- III . Lento assai
- IV . Molto vivace

ステラ・チェン (第1ヴァイオリン)
イム・ジヨン (第2ヴァイオリン)
大須賀 恵里 (ピアノ)

Stella Chen, 1st violin
Ji Young Lim, 2nd violin
Eri Osuka, piano

～ 休憩 Intermission ～

🎵 曲目解説 🎵

ジャン＝マリー・ルクレール：2つのヴァイオリンのためのソナタ ホ短調 作品3-5

ジャン＝マリー・ルクレール(1697～1764)は、バロック時代の作曲家、ヴァイオリニストで、舞踏にも長けていた。フランス・リヨンに生まれ、イタリアに赴いてジョヴァンニ・バッティスタ・ソミスにヴァイオリンを学んだあと、パリを中心に活動した。師ソミスは抒情的なイタリア様式と舞踏的なフランス様式を融合させた演奏で知られ、ルクレールはそれをさらに発展させた。ライバルとの争いや変死を遂げた最期など、波乱含みの人生を送っている。

ヴァイオリンと鍵盤のためのソナタは多数残されているが、2つのヴァイオリンのための作品は少ない。本作では、両ヴァイオリンのメロディーが絡み合ったり各自が重音奏法を活用したりして華やかさを生み出している。

このような技法を駆使して創られた第1楽章に対して、「優美なガヴォット」と記された第2楽章ではメロディーと伴奏の分担が明瞭だ。第3楽章は16分音符を連ねてほぼ休みなく展開する。

エドヴァルト・グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ハ短調 作品45

ノルウェーの作曲家エドヴァルト・グリーグ(1843～1907)の「ヴァイオリン・ソナタ」は、次のブラームスと同じく3作ある。この第3番は1886年夏に着手され、翌年完成された。奇しくもブラームスの第3番も同じ時期に成立した。

作曲のきっかけとなったのは、イタリア出身の19歳の女性ヴァイオリニスト、テレジーナ・トゥアの演奏を聴いたこと。第2番を発表してから20年も経っているから、よほど心を動かされたのだろう。ライプツィヒ音楽院の教授アドルフ・プロツキー(チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を初演した人物)の生徒ヨハン・ハルヴォルセンなどに演奏上の助言を求めつつ、作品を仕上げた。プロツキーのヴァイオリン、グリーグのピアノで初演されている。

第1楽章ではほとぼしる情熱とメロディーの抒情が交替する。第2楽章では歌心あふれる主部に、指で弦をはしく奏法を活かした軽やかな中間部が挟まれる。第3楽章では、活気あるかけあいを保ちながら、メロディーが調を変えながら表情を変化させていく。

ヨハネス・ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ 第3番 二短調 作品108

ヨハネス・ブラームス(1833～1897)がこのジャンルの第1番を完成したのは、46歳の時。自身が名手であったピアノ作品に比べると、遅咲きのジャンルといえる。

「第3番」は1886年から88年にかけて、スイス西部のトゥーン湖畔で作られた。同時期に「ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲」を発表し、不仲となっていた友人の名ヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒムとも和解。この協奏曲を最後の管弦楽作品として、その後ブラームスは、室内楽やピアノ曲、歌曲に集中する。内省的な傾向が増していく頃だ。

第1楽章はピアノのシンコペーションが耳を引く。拍節をぼかすようなリズムは後期ブラームスに特徴的で、第2楽章でも2小節を1小節に見立て3拍に分けるヘミオラという複合的なリズムが聴かれる。第3楽章では冒頭部分が再現される時に奏法が変化するので注目。終楽章は「アジタート(“激しく”とか“急きこむように”といった意味)」と指示されているとおり、緊張感のある和音で始まる。

モーリツ・モシコフスキ：2つのヴァイオリンとピアノのための組曲 ト短調 作品71

モーリツ・モシコフスキ(1854～1925)は、ポーランド出身のピアニストで作曲家。フランツ・リストは若きモシコフスキの才能を認め、2人は共演もしている。その後、演奏ツアーを通してヨーロッパ中に名を轟かせたモシコフスキは、技巧的でありながら親しみやすい曲調ゆえに「ショパンの後継者」と評価された。ヴァイオリンにも習熟しており、20世紀初頭に書かれた本作は彼の代表作といえる。

「組曲」は、さまざまな性格の舞曲を並べた器楽曲で、もともとバロック時代に流行した。本作では、この形式に後期ロマン主義のスタイルが融合。4つの楽章がそれぞれ異なる個性を発揮する。

第1楽章は、1挺のヴァイオリンで同時に複数の音を鳴らす重音奏法を用い、厚みある響きで始まる。3拍子のメヌエット風の第2楽章、第2ヴァイオリンが第1ヴァイオリンを模倣する第3楽章では、ピアノがハーモニーにこまやかな陰影をつける。終楽章は、バロック時代のジークを思い起こさせる軽快なテンポで、奏者たちに阿吽の呼吸を求める。

ステラ・チェン（ヴァイオリン）



©Abigail Kralik

2019年エリザベート王妃国際音楽コンクール（ベルギー）で優勝した米国籍のステラ・チェンは、2020年にエイヴリー・フィッシャー・キャリア・グラント及び同年のリンカーン・センター新進アーティスト賞を受賞。ハーバード大学から贈られるロバート・レヴィン賞の初代受賞者でもある。

ニューヨーク・フィルハーモニック、シカゴ交響楽団、ミネソタ管弦楽団、ヨーロッパ室内管弦楽団、ポルティモア交響楽団、ベルギー国立管弦楽団などのオーケストラ、イツァーク・パールマン、ジェイムズ・エーネス、マシュー・リップマンなどと室内楽で共演している。また、リンカーン・センター室内楽協会とニューヨーク及びツアー公演をたびたび行っている。

ハーバード大学とニューイングランド音楽院の共同学位プログラムにより、ハーバード大学で学位を、ジュリアード音楽院で博士号を取得し、現在、同音楽院でリ・リンのアシスタントを務めている。

これまでに、ドナルド・ワイラースタイン、イツァーク・パールマン、ミリアム・フリード、キャサリン・チョウに師事している。

2023年にプラトーン・レーベルからリリースされたデビューアルバム「ステラ×シューベルト」がグラモフォン誌から高く評価され、グラモフォン賞2023最優秀新人賞を受賞した。

日本音楽財団から貸与されたストラディヴァリウス1708年製ヴァイオリン「ハギンス」を使用して演奏している。

Stella Chen, violin

The recipient of a 2020 Avery Fisher Career Grant and 2020 Lincoln Center Emerging Artist Award, American violinist Stella Chen is the winner of the 2019 Queen Elisabeth International Violin Competition in Belgium. Stella is also the inaugural recipient of the Robert Levin Award from Harvard University.

Stella has performed with the New York Philharmonic, Chicago Symphony Orchestra, Minnesota Orchestra, Chamber Orchestra of Europe, Baltimore Symphony, and Belgian National Orchestra, among others. She appears frequently with Chamber Music Society of Lincoln Center both in New York and on tour. Her chamber music partners include Itzhak Perlman, James Ehnes, and Matthew Lipman.

A graduate of the Harvard/New England Conservatory Dual Degree Program, Stella received her doctorate from the Juilliard School where she serves as teaching assistant to her longtime mentor Li Lin. Teachers and mentors include Donald Weilerstein, Itzhak Perlman, Miriam Fried, and Catherine Cho.

Her debut album 'Stella x Schubert' on the Platoon label was highly acclaimed by the Gramophone, leading her to win Young Artist of the Year at Gramophone Classical Music Awards 2023.

She Plays the Stradivarius 1708 Violin "Huggins" on loan from the Nippon Music Foundation.

www.stellachen.com

イム・ジヨン (ヴァイオリン)



©Ho Chang

韓国ソウル生まれ。7歳でヴァイオリンを始め、韓国芸術総合学校（国立芸術大学）でキム・ナムユンに師事した後、ドイツのクロンベルク・アカデミーでミハエラ・マーティンに師事した。さらにケルン音楽舞踊大学で研鑽を積んだ。2015年エリザベート王妃国際音楽コンクール（ベルギー）で優勝した他、アメリカのインディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクール、ドイツのミュンヘン国際音楽コンクール、カナダのモントリオール国際音楽コンクール、ドイツのアンリ・マルトール国際ヴァイオリン・コンクール等の国際コンクールに入賞。

これまでにフランクフルト放送交響楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、マリンスキー劇場管弦楽団、インディアナポリス交響楽団など世界のメジャー・オーケストラと共演する他、著名な音楽祭への出演、また、各地でリサイタルツアーを行っている。

2017年にモーツァルトとベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタを収録したファーストアルバムをワーナー・クラシックからリリース。

フォーブス誌の30歳未満のアジアの特筆すべき30人に選ばれたほか、2023年、延世大学校弦楽音楽部教員に最年少で就任している。

日本音楽財団から貸与されたストラディヴァリウス1717年製ヴァイオリン「サセルノ」を使用して演奏している。

Ji Young Lim, violin

Born in Seoul, Korea, Ji Young Lim started the violin at the age of seven. She studied at the Korea National University of Arts under Nam Yun Kim and Kronberg Academy in Germany under Mihaela Martin. She also pursued further development at the Cologne University of Music.

In 2015, she won the first prize at the Queen Elisabeth International Violin Competition in Belgium. She has also received prizes at international competitions including the Indianapolis, the ARD, the Montreal International and the Henri Marteau. She is active performing with the prestigious orchestras such as Frankfurt Radio Symphony Orchestra, Royal Philharmonic Orchestra, Marinsky Orchestra, Indianapolis Symphony Orchestra as a soloist and touring worldwide as a recitalist. She also appears in numerous international music festivals. She released her debut album of Mozart and Beethoven sonatas from Warner Classics in July 2017.

She was selected by Forbes, “Asian Leaders Under 30” and in 2023 became the youngest artist to be appointed as a faculty member at the Department of Instrumental Music at Yonsei University.

She Plays the Stradivarius 1717 Violin “Sasserno” on loan from the Nippon Music Foundation.

www.jiyoung-lim.com



ストラディヴァリウス 1708 年製ヴァイオリン「ハギンス」
Stradivarius 1708 Violin “Huggins”

このヴァイオリンは英国の有名な天文学者サー・ウィリアム・ハギンス (1824-1910) が生涯にわたり所有していたことから「ハギンス」と呼ばれている。1870年代後半にウィーンの T. ザック氏がフランスから入手し、1880年頃、同氏から英国の W.E. ヒル&サンズの手へ渡り、1882年にサー・ウィリアムに売却された。色艶も鮮やかで保存状態に優れている。

This violin was once owned by an English astronomer, Sir William Huggins (1824-1910), who kept it until his death, hence the name “Huggins”. It was acquired by the dealer Zack of Vienna from France in the late 1870’s, and was brought to W. E. Hill & Sons in around 1880, and was sold to Sir William in 1882. The violin enjoys a very good reputation for brilliant color of varnish and for good state of preservation.



ストラディヴァリウス 1717 年製ヴァイオリン「サセルノ」
Stradivarius 1717 Violin “Sasserno”

1845年からフランスのサセルノ伯爵が所有していたことからこの名前と呼ばれている。1894年にはイギリスで有名な醸造所を所有していたピカリング・フィップスの手に渡った。1906年にはイギリスのヘンリー・サマーズが所有し、それ以後93年間にわたり同家で大切に保管されてきたため、製作時のままのニスが多く残っており保存状態が非常に優れている。

The name of this violin was taken from Comte de Sasserno, a French owner in 1845. In 1894, it was acquired by Pickering Phipps, owner of a well-known brewery in England. In 1906, this violin was passed into the hands of Henry Summers of England, and was well-preserved in his family for 93 years.

大須賀 恵里 (ピアノ)
Eri Osuka, piano



©Akira Muto

室内楽ピアニストとして原田幸一郎をはじめ国内外の巨匠と多数共演し第一線で活躍。レジス・パスキエ、ジャン＝ピエール・ヴァレーズ、ヴォルフガング・マルシュナー、ジェラルド・プーレ他著名ヴァイオリニストより絶大な信頼を得てマスタークラスピアニストを務める。2011年、元ウィーンフィル・コンサートマスターのダニエル・ゲーデとモーツァルトソナタ集CDをリリース。2013年から2015年、「Andiamo 大須賀恵里ピアノ室内楽演奏会シリーズ」を開催。音楽専門誌上で最上級の評価と反響を呼び、2016年より九州筑豊、水戸佐川文庫、東京浜離宮朝日ホールで「Andiamo Part 2 シリーズ」、更に2020年秋より川口リリア催し広場で大須賀恵里プロデュース「リリアの室内楽」をスタート。クラシック音楽界における若手演奏家育成へも情熱を注ぐ。

Eri Osuka is a distinguished chamber pianist who has made a significant impact globally collaborating with renowned maestros like Koichiro Harada. Also renowned as a master class pianist, she has earned the utmost trust and recognition by esteemed violinists such as R. Pasquier, J-P Wallez, W. Marschner and G. Poulet. In 2011, she released a CD featuring Mozart violin sonatas in collaboration with former Vienna Philharmonic concertmaster Daniel Gaede. From 2013 to 2015, she organized “Andiamo Osuka Eri Piano Chamber Music Concert Series”, receiving top-notch reviews and accolades in music publications. Since 2016, she has continued to captivate audiences in Kyushu Chikuho, Mito Sagawa Bunko, and Tokyo Hamarikyū Asahi Hall with “Andiamo Part 2 Series”. In 2020, she launched “Lilia’s Chamber Music”, a production at the Kawaguchi Lilia Event Square. Eri is deeply dedicated to nurturing young talent in the classical music realm.

www.eriosuka.com

エリザベート王妃国際音楽コンクール (ベルギー) Queen Elisabeth International Music Competition of Belgium

日本音楽財団は、世界3大コンクールの1つとしてあげられ、若手演奏家の登竜門として国際的に定評がある「エリザベート王妃国際音楽コンクール」のヴァイオリン部門優勝者に副賞として、1997年開催のコンクールから、ストラディヴァリウス1708年製ヴァイオリン「ハギンス」を継続的に貸与し、当該コンクールの発展と演奏家の技術と音楽性向上に貢献している。

2024年は当該コンクールのヴァイオリン部門の開催年であり、新たな優勝者が当財団の仲間に加わることになる。本日出演のヴァイオリニスト2名は2015年と2019年の優勝者である。これまでストラディヴァリウス「ハギンス」を貸与した優勝者は7名になる。

The Queen Elisabeth International Music Competition of Belgium is considered one of the world's top 3 competitions and recognized as young performers' gateway to success.

In 1997, Nippon Music Foundation started to loan the Stradivarius 1708 Violin “Huggins” to the grand prize winner of the Competition in order to support the Competition and the young promising players.

In 2024, the Violin session of the Competition will be held, and its winner will newly join as the recipient of the “Huggins”. The two violinists of today's concert are the winners in 2015 and 2019. To date, seven winners have been loaned the “Huggins”.

| | |
|-------------------------|---------------------|
| 1997 Nikolaj Znaider | 2012 Andrey Baranov |
| 2001 Baiba Skride | 2015 Ji Young Lim |
| 2005 Sergey Khachatryan | 2019 Stella Chen |
| 2009 Ray Chen | |

日本音楽財団 NIPPON MUSIC FOUNDATION

日本音楽財団は、1974年に日本国内の音楽文化の振興と普及を目的として設立され、創立20年を迎えた1994年からは、西洋クラシック音楽を通じた国際貢献を目的として、弦楽器名器の貸与事業を行っています。

保有する世界最高クラスの弦楽器21挺（ストラディヴァリウス製ヴァイオリン15挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、グアルネリ・デル・ジェス製ヴァイオリン2挺）を若手有望演奏家や世界で活躍する演奏家に国籍を問わず無償で貸与し、同時に、これら世界の文化遺産ともいわれる名器を次世代に継承するための保守・保全を行っています。また、楽器被貸与者による演奏会を日本国内外で開催し、名器の音色に触れる機会を提供しています。

日本音楽財団の事業は、日本財団の全面的な支援により実施されています。

Nippon Music Foundation was established in 1974 with the objective to enhance music culture in Japan. In 1994, the Foundation started the “Instrument Loan Project” through which the Foundation has strived to make international contributions by loaning the top-quality string instruments acquired by the Foundation.

The Foundation now owns 21 string instruments (15 Stradivarius violins, 1 viola, 3 cellos and 2 Guarneri del Gesù violins), and as the custodian of these world cultural assets, maintains them for future generations and loans them gratis to young promising musicians and internationally-active musicians regardless of their nationalities.

The Foundation’s activities are made possible by the generous support of The Nippon Foundation.

表紙写真：ストラディヴァリウス1708年製ヴァイオリン「ハギンス」
裏表紙写真：ストラディヴァリウス1717年製ヴァイオリン「サセルノ」